



〒915-0823
 福井県越前市本町10-2
 親縁山 大寶寺
 TEL/FAX (0778) 22-1682

秋彼岸中日法要の御案内

9月23日(土)

お彼岸とは春分の日と秋分の日を真ん中にして前後三日間の一週間の期間のことを言います。ですから今年の秋のお彼岸の入りは9月20日で、26日に明けることとなります。当山では彼岸の中日、つまり9月23日の午後2時から本堂にて、法要を営みます。一時間ほどのお勤めです。ぜひ、おまいり下さい。

ところで「彼岸」とは「此岸」と対応することばです。此岸とはこちら側、つまり煩惱と迷いの世界であるこの世のことと示します。一方、彼岸とはあちら側、つまり、悟りの世界を示します。お念仏の教えでは、「南無阿彌陀仏」とお唱えすることで、極楽浄土に往生することができます。そして、阿彌陀さまじききのご指導のもと、誰でも悟りの境地にお導きいただけます。彼岸とはすなわち極楽浄土のことです。



夕日に向かい、両手を合わせて先祖さまを偲び、極楽浄土に思いをはせてお念仏を唱えてみましょう。

春と秋のお彼岸の時期には、昼と夜の長さが同じになり、太陽は真西に沈みます。夕焼け空を背景に西に沈みゆくお日さまを眺め、西方極楽浄土に思いをはせ、先に往かれたご先祖さまを偲び、また、漫然と過ごしがちな日常を反省し、お念仏とともに日々を過ごすことを、あらためてお誓いしてみたいかがでしょうか。

秋彼岸中日法要

九月二十三日(土)

午後二時より

お墓参りの際は、本堂にお入り頂き正面の阿彌陀様にお参り下さい。

第37回 おてつぎ信行奉仕団のご案内

「おてつぎ運動」とは法然上人のみ教えを「手から手へと」伝えていこうというお念仏実践の運動です。「おてつぎ信行奉仕団」では、法然上人の祖廟に参拝し、お念仏や礼拝、また清掃奉仕をします。信行奉仕団に参加して、あわただしい日常生活でたまった心の垢を洗い流しましょう。

二日目は平山郁夫画伯が30年をかけて制作した「大唐西域壁画」の特別公開をしている奈良の薬師寺や忍術で有名な伊賀上野の忍者屋敷を訪れる予定です。



玄奘三蔵院の壁には平山画伯のシルクロードの連作が49mにわたって描かれています。

【日時】 10月17日(火)、18日(水)

【参加費用】 16,000円 バス代・冥加料・回向料・昼食代など

【日程】 (変更の可能性があります)

初日 鯖江発—大寶寺発—今庄インター—知恩院着—結団式
 6:00 6:30 9:30 10:00
 記念写真—御影堂参拝回向・別時念仏(礼拝)—昼食
 12:00
 清掃奉仕・御廟参拝—法話—夕食—入浴—就寝
 17:00 18:00 22:30
 翌日 起床—法要参列—法話—朝食—解団式—知恩院発
 6:00 9:00 10:00
 薬師寺参拝—昼食(奈良)—忍者屋敷(伊賀上野)
 12:00
 今庄インター—大寶寺—鯖江着
 18:30 19:00

※お申込みは10月7日までお願いします。

お稚児さんお練り行列参加のご案内

従前よりご案内のように平成19年4月15日(日)の大寶寺二十六世晋山式、ならびに元祖法然上人八百年お待ち受け法要の際にお稚児さんのお練り行列が出ます。

めったにない機会です。お檀家の家族だけでなく、ご近所またご親戚のお子さまなど、お誘いいただきましてご参加下さい。

参加費用は標準の衣装が8,000円、大紋・蝶は10,000円です。別紙の申込用紙とともにお金を添えて来年1月末までに直接寺に。もしくは世話方を通してお申し込み下さい。詳細につきましては大寶寺にお問い合わせ下さい。



左の写真は平成15年7月南越前町宇津尾の延命地藏尊開帳の時の稚児行列です。

トピックス

第17回浄土宗福井教区
檀信徒研修会 7月2日(日)

当日午後一時より、福井県各地から集まった浄土宗檀信徒や一般の参詣者、また僧侶など総勢四百名が参加して、福井教区檀信徒研修会が敦賀市原の西福寺にて盛大に執り行われました。

最初に御詠歌の流れる西福寺の本堂に法然上人のご分身を本堂にお迎えしたあと、滋賀弘誓寺の加藤善也上人が浪花節の元であるといわれる「デロレン法話」という形式で法然上人の一代記を語りました。「デン・デン・デン」という女声のお囃子は、はじめはユーモラスに聞こえましたが、語り手の独特の節回しと調和して古の布教を彷彿とさせました。

次に「瑤」という男女二人組のオカリナ奏者が、ギターと打楽器の奏者に合わせて和讃、ラテン音楽などさまざまな曲



オカリナ2名、ギター、打楽器で編成されたバンドが、西福寺のご本尊である法然上人の御尊像と、遠来のご分身の前に設置されたステージ上で約一時間に渡り、軽やかな音楽を奏でました。

を演奏しました。童謡の演奏のときには北陸きつての名刹である西福寺の本堂内に参詣者の歌声が響き渡り、とても和やかなひと時を過ごすことが出来ました。大寶寺からは6名、法林寺からは4名、浄土寺からは1名の参加がありました。

新盆墓参り・棚経

7月13日～15日

新盆墓参りは13日午後から夕方にかけて旧武生市内の檀家の方々が灯籠持参でお墓参りにこられます。14日には主に旧武生市内、また、15日には鯖江と福井市内の檀家の方々のお宅を訪問し、お仏壇の前で棚経のお勤めをしました。今年は比較的涼しい新盆となりました。

村国地蔵祭り

7月24日(木)

村国一丁目の芦山通りの地蔵尊のお祭りが催されました。大寶寺の檀家の縁のお地藏さまさまとすることで毎年法要を勤めています。法要の後は子どもたちにお菓子がふるまわれました。

総墓参り

8月10日

(木)

当山の本堂にて総墓参りの法要が営まれました。炎天下のもと、水吹き地蔵尊北側の総墓に水塔婆をあげてお参りする人



や、お花をたずさえて一家でお墓参りをする人、また、さわやかな風が吹き込む本堂での法要に参詣する人などで例年にも増して賑わいました。

お昼には庫裏にて、食事をしました。

旧盆棚経

8月11日～16日

連日の猛暑の中、住職と若の二人で各地の棚経に回らせていただきました。

法林寺永代経法要

8月16日

午後から具谷の法林寺の本堂にて永代経の法要を勤めました。

浄土寺施餓鬼会法要

8月17日

午後から浄土寺の本堂にて住職と若の二人でお施餓鬼の法要を勤めました。



かわいそうな冥王星？

辞典によると、「かわいそう」とは「同情をさそうさま」。また「同情」とは「他人の苦しみや不幸を共感し、思いやり、いたわりの心を持つこと」とある。

惑星の定義が変わり、冥王星が矮惑星に格下げになって、「冥王星がかわいそう」というコメントがあった。

冥王星は、はるか彼方の楕円軌道を周回する氷で覆われた月よりも小さな天体である。とはいえ、じかに触ったことがある人も、肉眼で見たことのある人もいない。大方の人にとって、冥王星は天文学者が提供した情報、あるいは知識に過ぎない。にもかかわらず、人は冥王星がかわいそうだと思う。つまり、人は情報や知識にすら苦しみや悲しみを共感するわけだ。

同じ頃、ごまあざらしのナカちゃんが那賀川の中州で死んでいるのが見つかった。中年の女性が涙する様子がテレビに映ったぐらいだから、「ナカちゃんがかわいそう」と、思う人は少なくないはずだ。これもよくよく考えてみれば不思議な話だ。ナカちゃんはすでに死んでこの世にはいない。あの世のナカちゃんがどうなっているか、いくら考えても分からない。でも、人はあの世に旅だったナカちゃんのことを、かわいそうだと思う。つまり、人は彼岸の存在に対しても思いやることのできるのだ。人の心は科学や理性の枠を超えて、ものごとをとらえる。そのような心を持った人間だからこそ極楽浄土に救い取ろうというのが、阿弥陀佛の本願ではなからうか。

おてつき運動
40周年記念大会

日時 平成18年10月9日(日)
会場 総本山知恩院
メ切 9月末日まで

ふだんは入れない茶室での接待、国宝三門の拝観、実力派講師の一龍齋真花の記念公演、また雪香殿での昼食など盛りだくさんです。

費用は無料で現地集合。受付開始9:30、すべての行事の終了は16:30です。どなたでも参加頂けます。申し込み、ならびに問い合わせは大寶寺まで。